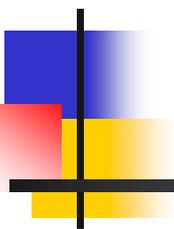
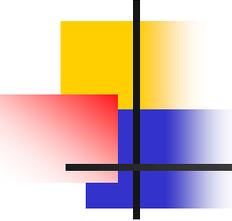


次期「教育振興基本計画」 に向けて(提案)



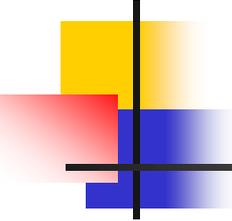
大森 不二雄

令和3年6月29日
大阪市総合教育会議



大阪市の教育改革は、何をめざしてきたか、今後は何をめざすべきか

- これまでも、これからも、めざすべき**目標は、そう複雑ではない**と思う。
- 求められるのは、いじめや暴力から子供を守る**安全・安心**な学校、そして、
- 落ち着いて勉強できる環境の中で、子供達の**学力**を向上させること、その一点であろう。
- その**方法論**については、**多様な創意工夫**があってもよい。しかし、**大きな方向性は共有されなければ**、子供をはじめ保護者や市民の皆様に責任を果たせない。

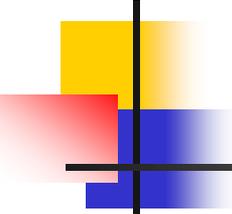


子供達の未来に責任を持つ

- 教育は、数字だけでは表せない。しかし、数字に表れたものを直視することは大切である。
- 学力調査やテストの成績について、子供達の将来にとって意味がないかのようにいう意見が、本市において公然と述べられている。暴論である。
- 義務教育が培う基礎学力は、進学や就職に当たって重要なことはもとより、知識社会とも呼ばれ、生涯にわたって学習し続けることが求められる時代に、一人ひとりの職業生活や市民生活における可能性を大きく左右する。
- このような子供達の未来に対する責任を自覚していないかのような意見、保護者や市民に対する説明責任を放棄するかのような考え方が、学校の責任者から語られる現実は、全くもって信じ難い。
- 学校間格差や全国との格差を含む学力向上の課題を直視し、真剣に取り組まなければならない。このような「基本の基」は、教育行政だけではなく、学校現場において共有されなければならない。

学力を向上できるのは 学校現場だけ

- ここ10年程、本市の予算においては、教育が重点投資の対象とされ、安全・安心と学力・体力の二大目標のため、子供達に直接響く施策も講じられてきた。
- しかし、**予算や政策だけでは学力は上がらない**。市役所の建物の中から子供の学力を上げることはできない。**学力を向上できるのは、学校現場だけである**。
- 校長の方針の下、教師が一丸となって、**子供達に高い期待をかけ続けることが必要**である。「この子に期待できるのは、この程度。勉強以外で居場所があればよい」などと、**期待を下げる(無)意識がその子の将来の可能性を狭める**。
- **我々は皆、子供の潜在能力を信じなければいけない**。「分かった」「できた」という経験で、子どもは伸びる。まず校長が信じる。そして、教職員にその信念を共有してもらう。**各学校の組織風土がこのように前向きなものになれば、教育は変わる**。
- 大阪市の教育をそのような風土に変えていくため、**教育行政と学校運営が歩調をそろえ、前向きに取り組んでいくガバナンスの確立が不可欠**である。



パンデミック下の世界の教育で、 読むことの重要性が改めて浮き彫りに

「生涯にわたって学び続けるマインドセット(思考様式)を形づくる鍵となる態度は、課題をやり遂げるモチベーションと読むことを楽しむことである。これらの態度は、休校期間中に特に不可欠なものとなっている。自身のペースで学び、自分で勉強の計画を立てる必要があるからである。そして、学業での成功や学び続ける努力を助ける。」(シュライヒャー OECD教育・スキル局長)

Andreas Schleicher (Director, OECD Directorate for Education and Skills), "How can we foster lifelong learning attitudes in students?", *OECD Education and Skills Today*, June 15, 2021.

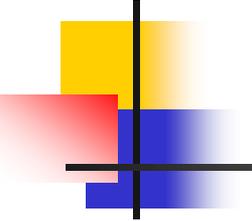
{<https://oecdedutoday.com/how-can-we-foster-lifelong-learning-attitudes-in-students/>}

読む習慣と読解力は、子供達の長い人生にとって大切な自律的な学習を支える。

脳科学者が強調する 言語能力と読書の重要性

- 人間の独創性の基礎には言語能力がある
- 思考力＝言語力＋想像力
- 生涯にわたる読書や学習の蓄積が脳を創る
- 読書や教育の価値は、効率にはない
- 自分の中だけの思考には限界がある
- 読書は著者との対話である

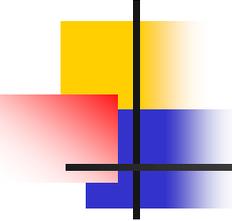
[出典]平成29年度IDE大学セミナー『大学生と言語』(2017.11.29 仙台)における酒井邦嘉東京大学大学院総合文化研究科教授による基調講演「脳科学から見た現代の大学生と言語」より一部内容を抜粋



読書については、 こんなデータも

読書習慣のない小中学生の多くは、毎日1～2時間も勉強して、ちゃんと睡眠をとっていても、試験の成績が平均点以下になっている(仙台市の平成29年度の小5～中3約4万人の調査結果)。

[出典]川島隆太(監修)・松崎泰・榊浩平(著), 2018, 『最新脳科学でついに出了結論「本の読み方」で学力は決まる』青春出版社.



読解力の向上は、大阪の子供達 にとって、喫緊の課題

- 2019年度全国学テで、**大阪市は小学校国語が政令市最下位にとどまった。**
- **小学校で読解力が十分身に付かないと、その後の学習や社会生活で大きな課題を抱えることになる。**

OECD生徒の学習到達度調査(PISA2018)

～日本の高校1年の読解力が低下～

【萩生田文部科学大臣コメント】(一部抜粋)

今回の調査結果によると、……**読解力**については、OECD平均より高いグループに位置しているものの、前回**2015年調査よりも平均得点及び順位が低下**しています。

今回の中心分野として詳細な調査が行われた**読解力**については、**低得点層が増加**しており、学習指導要領の検討過程において指摘された、**判断の根拠や理由を明確にしながら自分の考えを述べること**などについて、引き続き、**課題が見られることも分かりました。**

誰一人取り残さない

読解力・思考力の育成

(次期計画での新規施策の提案)

- 説明的な文章(理数的な内容を含む)の読解を中心とする学習活動により、自律的な学習習慣、読解力をベースとした思考力・判断力・表現力等を育成する授業時間を毎週、全市的に確保すべきである。
- このため、本市の全小・中学校の時間割において本授業時間を確保する方策について、「総合的な学習の時間」の活用を含めて検討するとともに、モデル・カリキュラムや教材等を開発する必要がある。

もう一つの喫緊の課題は、 教員の人材確保

- 全国の公立小学校の教員採用試験の倍率が過去最低の2.7倍となった2020年度、大阪市の倍率は2.4倍と全国平均を下回った。
- 初任給の引き上げによってここ数年の受験者数に増加傾向が見られ、学力重視の採用試験が質の確保にも効果を上げていると思われるが、中学校の数学・理科の低倍率など依然として厳しい状況が続いている。
- 人材供給源としての毎年の教職課程卒業者には限りがある。
- 全国的に教員のなり手不足が深刻となる中、小学校35人学級もあり、小中学校とも志願者確保のための自治体間競争の激化が予想される。
- さらに、ICT活用教育の本格化、小学校の教科担任制導入や英語教科化等もあり、多様で高度な人材の確保が差し迫った課題となっている。

今こそ求められる

「特別免許状」の積極的活用 (次期計画での新規施策の提案)

- こうした中、今年度に入って、国においては、教職課程履修者に限定しない多様な人材を教員として登用するため、特別免許状の積極的活用を求める動きが相次いでいる。
- まず文部科学省は、「特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針」を5月11日に改訂し、学習指導要領の掲げる「社会に開かれた教育課程」や均一な集団ではなく多様性を備えた教員組織が望まれるとした上で、公立学校での特別免許状の授与・活用が進んでいない現状を問題視し、修士・博士の学位保有者等の例示をはじめ、都道府県教委等に積極的な授与・活用を促した。
- また、規制改革推進会議は、6月1日の答申で、特別免許状について、「その数はいまだ年間 200 件程度にとどまっている」と指摘し、「教職課程の履修を通じた教員免許状の取得に限定されない、特別免許状を活用した仕組みを検討する」こと等を求めた。
- さらに、6月18日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2021」(いわゆる「骨太の方針」)は、「外部人材の登用を含む教員免許制度等に関する抜本改革を検討し、結論が出たものは本年度内から見直す」ことを内閣の方針として決定した。
- 本市は、全国に先駆け、府市連携により、特別免許状を積極的に活用した採用選考の新たな特例措置を検討し、多様で高度な人材の教員採用を推進すべきである。

大学や産業界との連携による 学校教育のバージョンアップ

- 特別免許状の積極的活用による教員採用の新たな特例措置に関し、特に修士・博士の学位保有者(大学院修了者)については、来年度開学予定の大阪公立大学をはじめ大学との連携協力により、大学院修了者の進路拡大という大学側にとってのメリットも強調しつつ、本市の小中学校への多様で高度な人材の確保を推進すべきである。
- 社会人の採用については、産業界に協力を求めることが望ましい。
- 多様で高度な教員の採用・資質向上および誰一人取り残さない教育イノベーションを推進するため、教育シンクタンク機能の整備を進め、全市レベルで教育の高度化に貢献する拠点を構築していくべきである。
- その際、既に連携関係にある大阪教育大学に加え、開学予定の大阪公立大学をはじめ、大学との連携協力を図っていくことが望まれる。
- 産業界にも先端的な技術・知見による支援・協力を求めることが望ましい。